

# 普遍ニュースレター

Newsletter from Center for General Education, Chiba University

Design: CHIHARA Kazuhiko

2011.06 No.09

“普遍ニュースレター”は、  
普遍教育センターの活動を中心に普遍教育・大学教育の動向に関する情報を  
定期的に紹介していきます（年2回刊行予定）。

## ●平成23年度普遍教育センターの活動方針

普遍教育センターは開設6年目を東日本大震災への対応のさなかで迎えました。具体的には、計画停電、夏期電力不足逼迫を想定した普遍教育カレンダーの修正、授業開始日に来日できない留学生への対応などです。また、事務組織も普遍教育課は学生部教務課に統合され、普遍教育室とその名称も変更されました。さらに、新たに3名の教員（忽那教授、池田教授、三野准教授）が着任し、新メンバーにより活動を開始しております。

平成23年度は、このような状況にあっても尚、普遍教育の目的を達成すべく、普遍教育センターは、次の5項目を中核に据えた活動を計画しております。

第1は、東日本大震災の影響を考慮した普遍教育の提供を随時、検討し、教育の質と量を維持できるよう努め、学生への影響を最小限にすることです。停電時も可能な限り授業を提供できるよう準備を進めております。また、5月第2週目より土曜日に授業を行いますので、担当教員、学生との連絡を密にするともに、事務部門との協力も必要です。

第2は普遍教育カリキュラムマップの作成準備、第3は情報処理科目の見直しとそれに伴うカリキュラム改編準備です。第4はTA研修会の見直しと充実、第5は学生の学習意欲喚起に向けた普遍教育の意義、目的の理解強化です。これらに加え、補習科目の見直し、資格関連科目のカリキュラム改編、成績評価の適正化対策強化に向けた検討など課題は盛りだくさんです。

このうち、第2、第3、第4課題の達成に向けては、ワーキンググループ（カリキュラムマップ関係WG主査：前田副センター長、情報処理科目関係WG主査：小澤副センター長、TA研修関係WG主査：三野准教授）を編成し、活動していきます。平成23年度は、毎年、前期に実施している各学部との意見交換会をワーキンググループの活動の成果を待ち、後期に実施させていただく予定です。

今年度も、どうぞよろしくお願ひします。

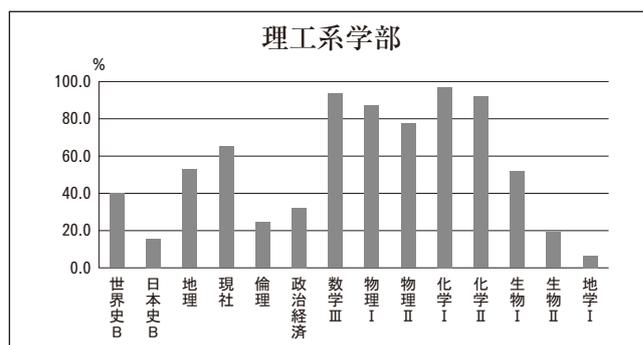
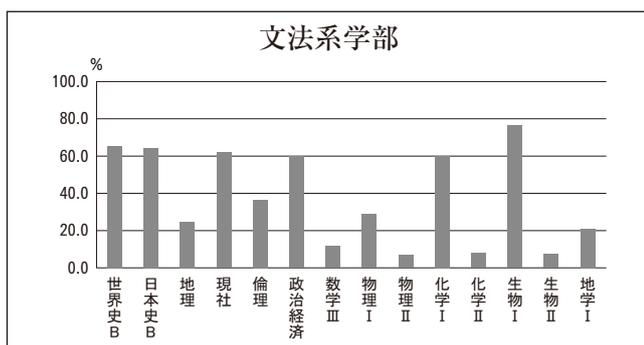
普遍教育センター 舟島なをみ

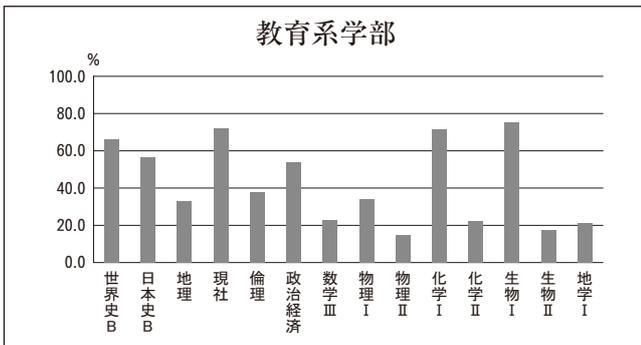
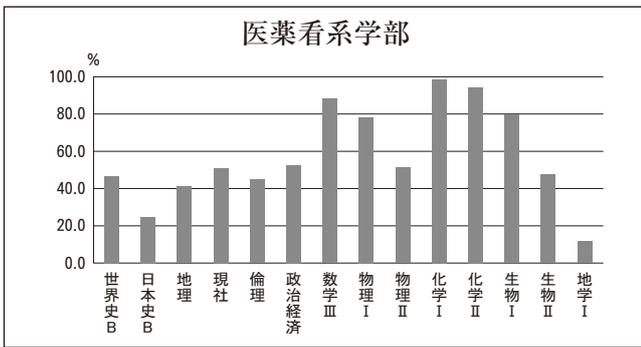
## 新入生の高校での履修科目等調査報告

普遍教育センターでは、平成16年度以降、各学部の協力を得て、千葉大学新入生に対して高校時の履修科目及び試験で利用した科目を尋ねる「人文・社会科

学系、自然科学系のアンケート（高校時の履修科目アンケート）」を実施しています。新入生の約95%である2,273名からの回答を得て、平成23年度の集計が出来あがりましたので報告いたします。

学部ごとの詳細なデータは5月17日開催の普遍教





育委員会の報告資料にありますので、ここでは昨年度同様、文法系学部・理工系学部・医薬看系学部・教育系学部に分けて、結果を報告させていただきます。各学部の学科・課程別の詳細なデータは普遍教育センターのホームページ (<http://fkc.chiba-u.jp>) に掲載されておりますので、講義等で学生の履修動向を参考にしたい先生方は是非ご覧ください。普遍教育の充実のみ

でなく、各学部での初年次教育、基礎教育の充実のための参考資料としても役に立つことを願っています。  
(白川優治)

### 普遍教育センターの活動報告

普遍教育センターでは、昨年度末から今年度初めにかけて、以下のような活動をしました。

- ガイダンス担当教員説明会 (3月31日)
- 新入生ガイダンス「普遍教育って何？」(4月4、5日 計5回開催)
- 新任教員研修会 (4月7日・8日)

このうち、新入生へのガイダンス「普遍教育って何？」は、できるだけ多くの学生に出席してもらえよう、2日間で5回開催し、約800名(入学定員の35%)の参加がありました。

普遍教育の履修方法については、各学部でご説明いただけますので、このガイダンスは、普遍教育の意義・目的や特徴を説明することがねらいです。

参加した学生からは、「冊子だけではよくわからなかった普遍教育についてよく理解できた」「大学で学ぶことに意欲が湧いた」といった意見が多く寄せられました。これからも新入生へのガイダンスを実施していく予定ですので、内容等についてご意見・ご要望があれば、センターまでお寄せください。(前田早苗)

## 言語教育センターより

### 初修外国語の活動

平成9年度の初修外国語履修選択化以後、千葉大学の初修外国語は、履修学生の関心、需要に合わせ目的別コースを設け、「入門から留学まで」を合言葉に言語教育を実践しています。新しい言語を学びたいという学生の要望は以前にも増して大きく、ほとんどの学部で初修外国語の履修は選択であるにもかかわらず、千葉大学の学生は、平均して1.5の初修外国語を学んでいることとなります。

このような学生の高い関心に応えるために、本年も、学年の初めにあたり、4月11日に初修外国語のガイダンスを行いました。このガイダンスでは、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語の初修外国語科目だけではなく、トルコ語、アラビア語、ハンガリー語、ラテン語、ギリシア語などの教養展開科目の担当の先生方の協力を得て、12言語の紹介が行われました。昼休みという限られた時間で各言語の説明は非常に短いものとなりましたが、各言語の担当の先生方の工夫により、それぞれの言語の「お国柄」を反映した、楽しくかつ情報量の豊富な催しものになりました。

(言語教育センター 田中 慎)